



神戸天然物化学株式会社

**2018年3月期  
決算説明会説明資料**

証券コード：6568

2018年5月24日



1	会社概要	-----	P.2
2	2018年3月期決算実績	-----	P.12
3	2019年3月期決算見通しと中期展望	-----	P.18
4	Topic	-----	P.25
5	Appendix	-----	P.28



# 1. 会社概要

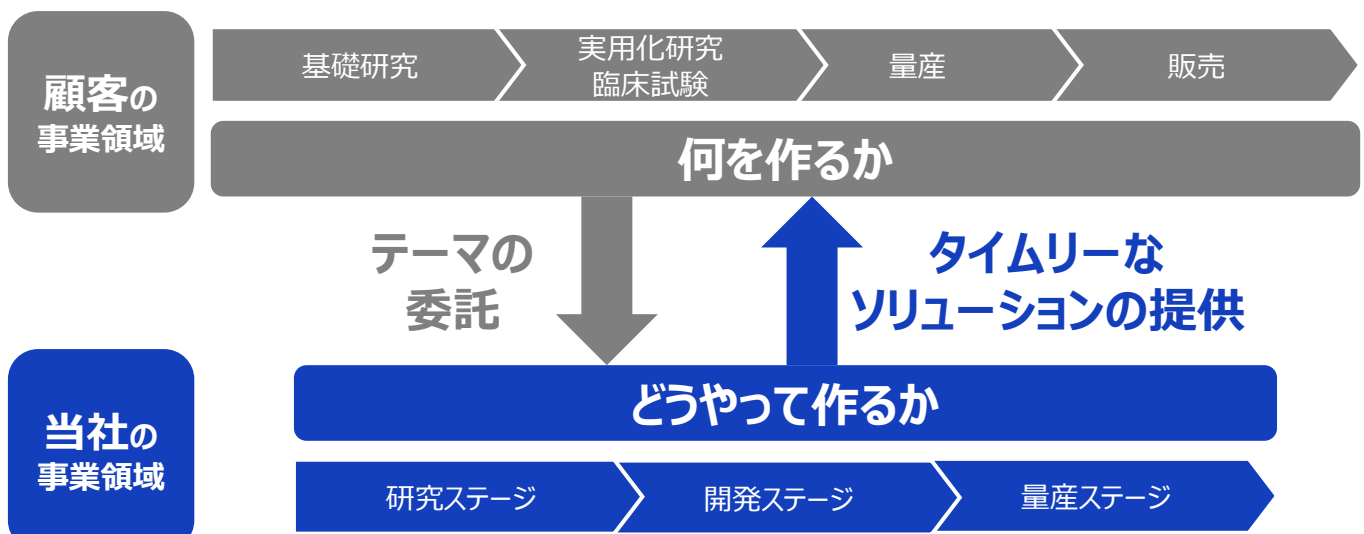


## 神戸天然物化学：

### 有機化合物の受託研究・開発・量産を手掛ける先端技術会社

- 機能材料、医薬、バイオの3事業を展開
- 大手化学・製薬メーカーの製品開発の各ステージで高付加価値な製品・サービスを提供
- 研究・開発・量産とステージアップすることで高収益を獲得するビジネスモデル

#### ソリューションの流れ



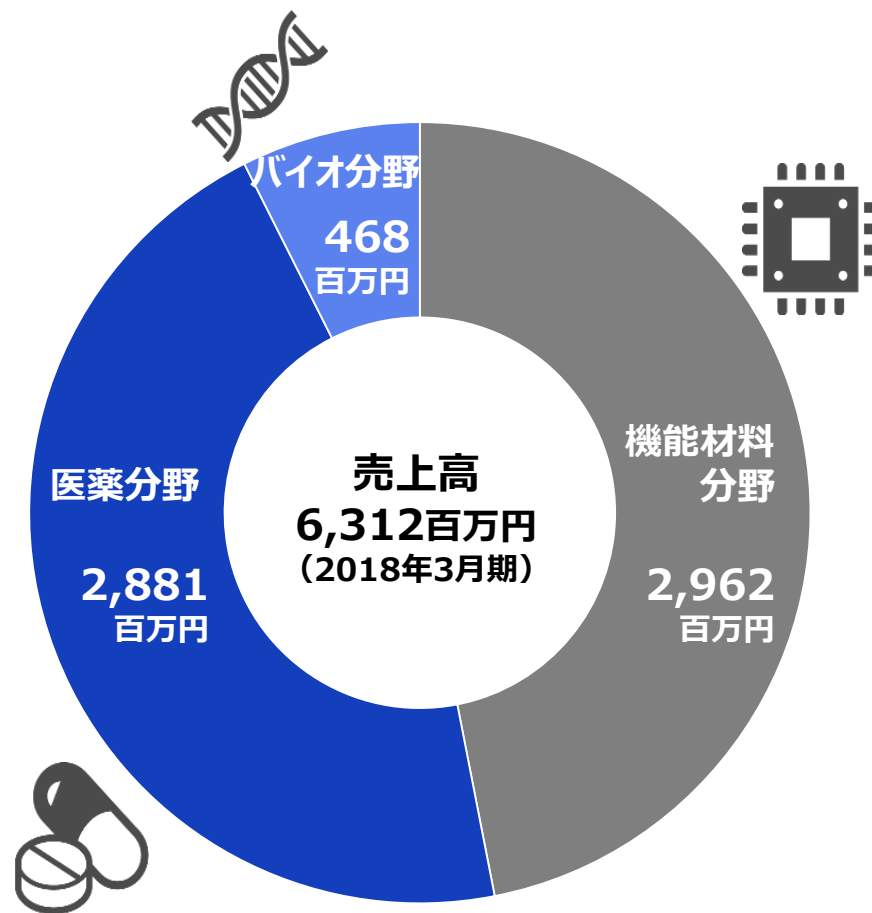


# 1-2. 基本情報

## 会社概要

社名	神戸天然物化学株式会社 KNC Laboratories Co., Ltd.
代表者	代表取締役社長 広瀬 克利
設立年月	1985年1月
本社住所	神戸市西区高塚台三丁目2番地の3 4
事業内容	有機化学品の研究・開発・生産ソリューション事業
役員・従業員数	254名 (2018年3月末)
拠点	兵庫県 (本社・神戸工場・神戸研究所、岩岡工場 市川研究所、KNCバイオリサーチセンター) 島根県 (出雲第一工場・第二工場) 東京都 (東京営業所)
総資産	12,768百万円 (2018年3月末)

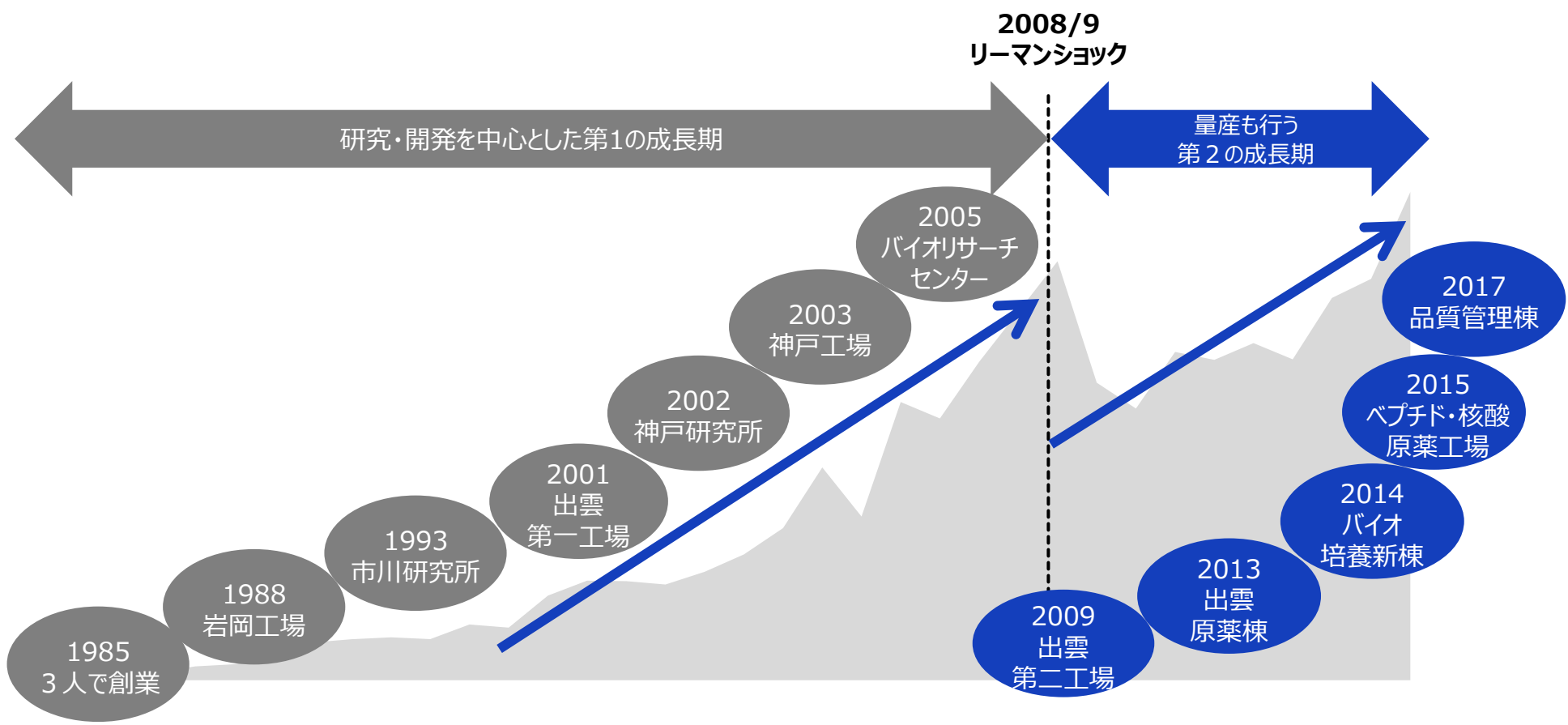
## 売上高構成比





- 「発展」をテーマとして33年の実績
- 現在は、従来の研究・開発分野から量産分野にも進出した「第2の成長期」

## 当社33年の発展





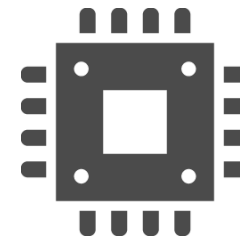
## 1-4. 主要事業概要

- 当社は、機能材料事業、医薬事業、バイオ事業の3事業を展開

### 機能材料事業

#### 電子材料や医薬用原料等を生産・供給

表示材料、半導体製造用化学品、カーボンナノチューブ分散体  
省令規制対象外医薬用原料、治験薬用原料  
農薬研究用化合物



### 医薬事業

#### 治験原薬・医薬原薬等を生産・供給

医薬研究開発用化合物・治験原薬・医薬原薬



### バイオ事業

#### 遺伝子組換え微生物による有用物質を生産・供給

医薬研究開発用化合物・治験原薬・医薬原薬  
抗体医薬製造用助剤

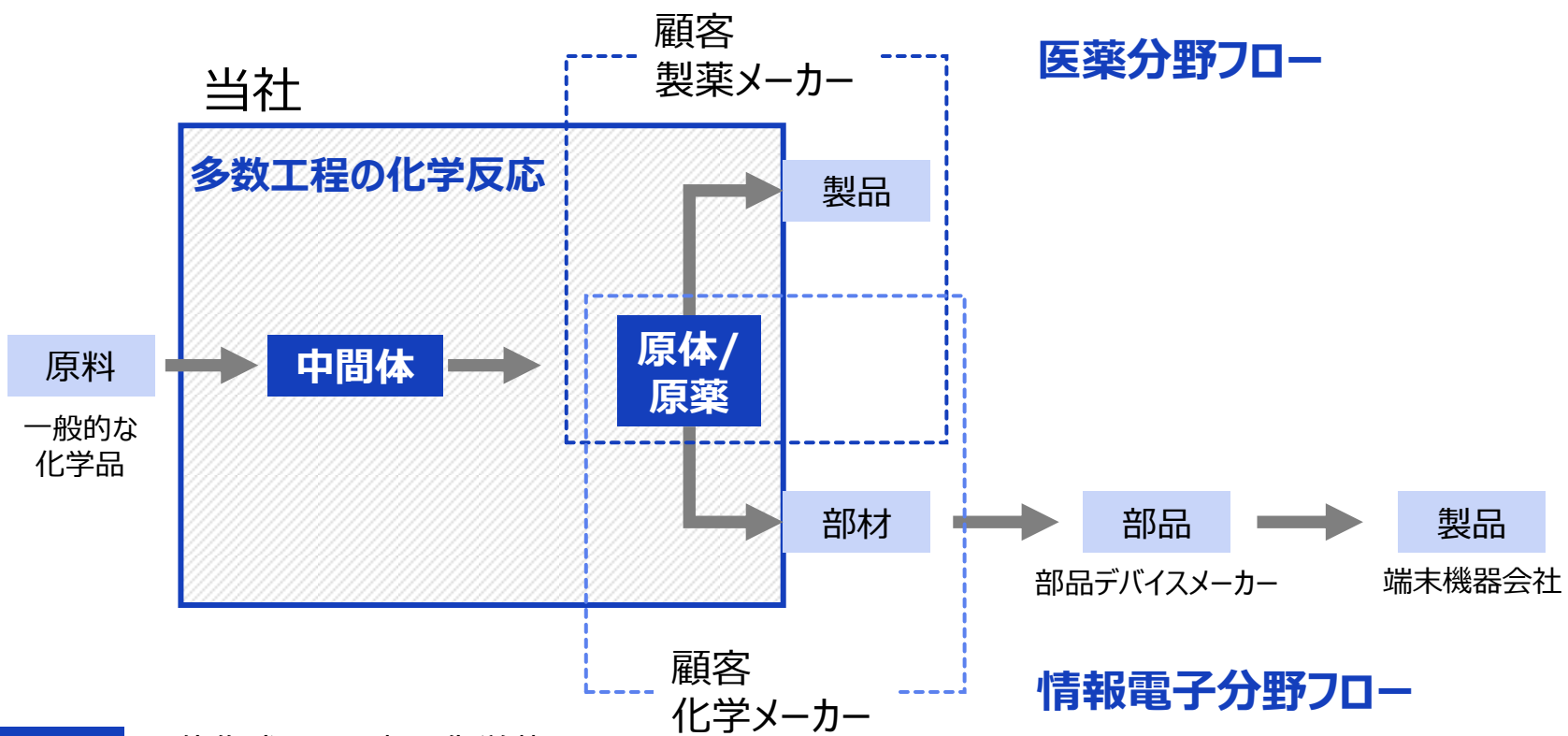




# 1-5. バリューフロー

- 一般的な化学品に対し多数工程の化学反応を施すことで医薬分野、情報電子分野で用いる原体/原薬を製造する

## 当社のバリューフロー



**中間体** 原体作成に至る専用化学薬品  
**原体** 薬品・機能の有効成分を有する化合物

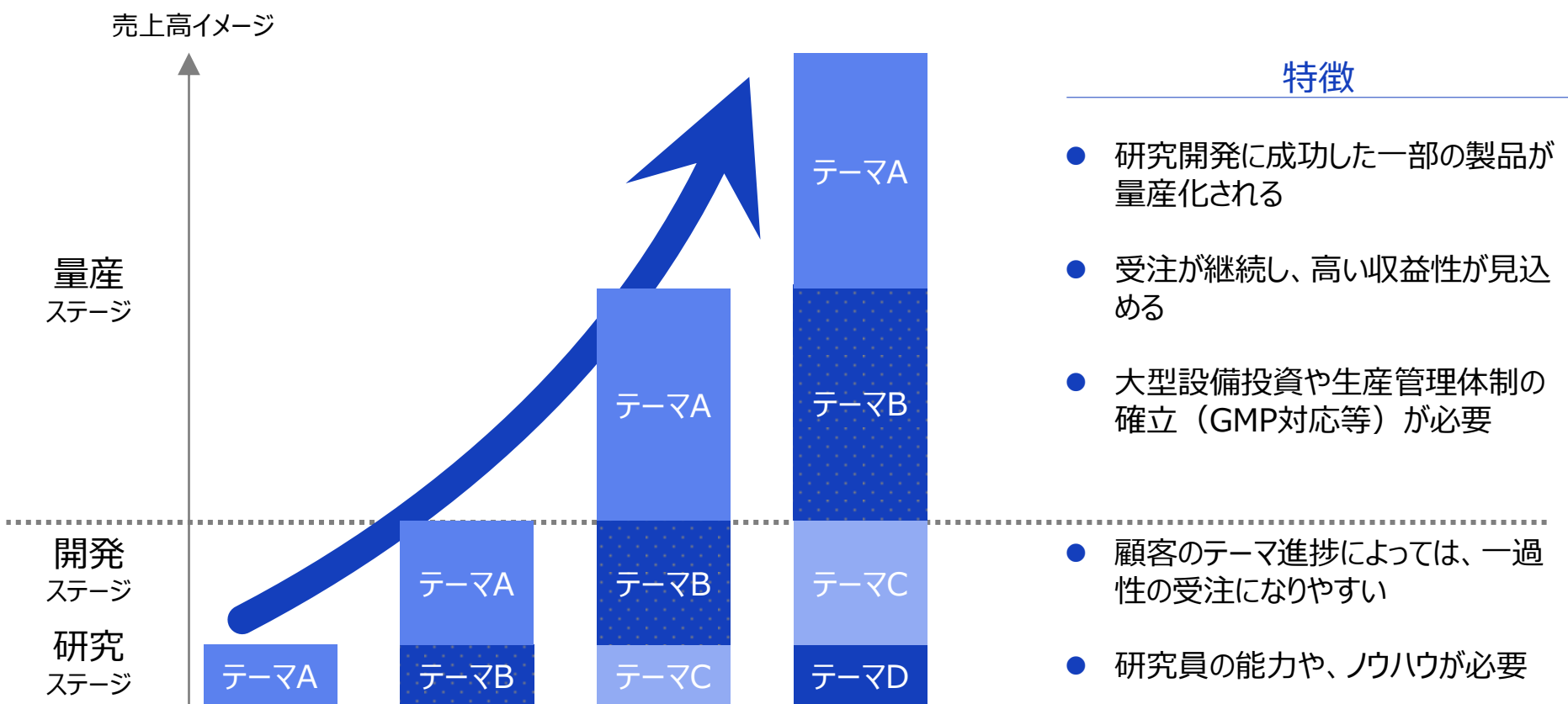




# 1-6. ビジネスモデル

- 研究・開発・量産とステージアップさせ、1つのテーマを大きく成長させるビジネスモデル
- 顧客に対してワン・ストップ・サービスを提供

## 1つのテーマを成長させ、量産ステージで多くの収益を獲得するビジネスモデル

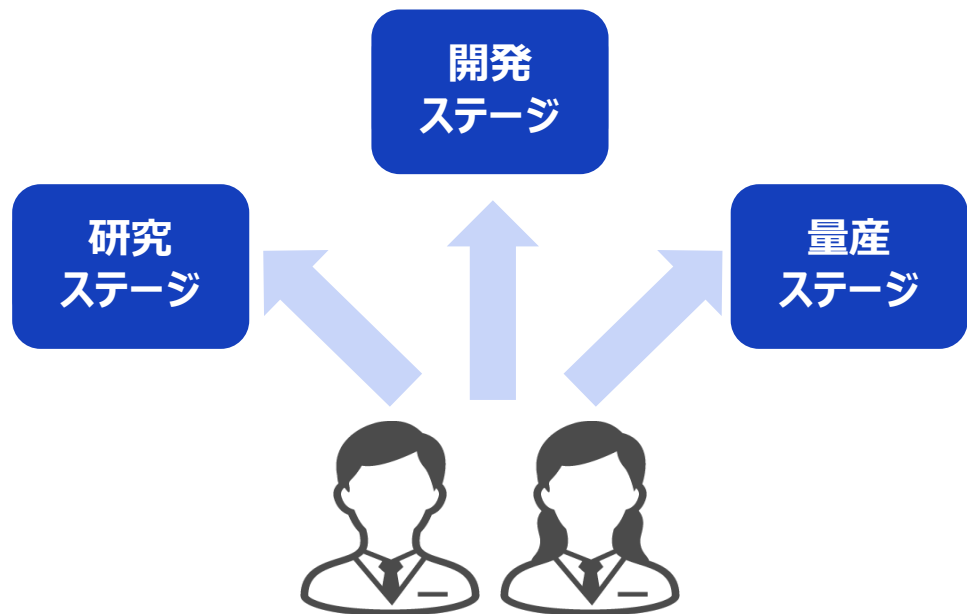




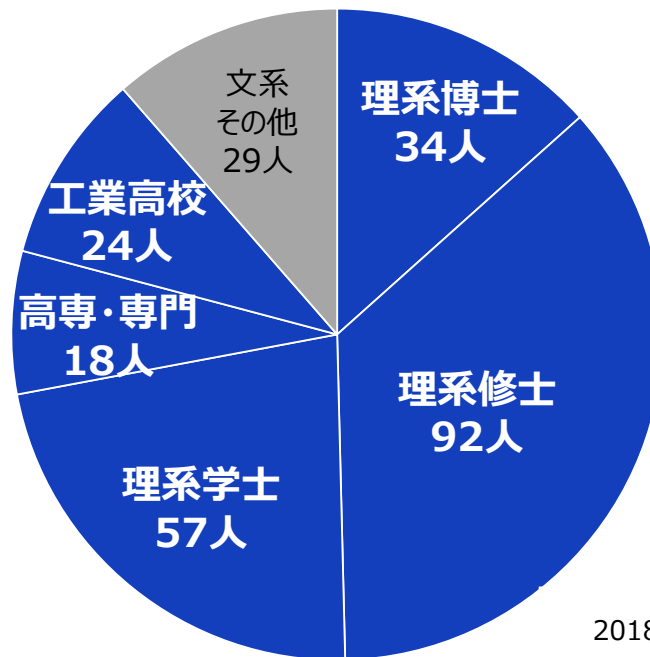
## 1-7. 高度な技術者集団

- 各人が研究から開発まで幅広いテーマを扱うことでノウハウが社内に蓄積
- 役員・従業員254名のうち約9割が理系であり、研究・開発ステージを牽引

### 全てのステージを扱うことでノウハウが蓄積する環境



### 役員・従業員に占める「理系」社員の割合



- 社員は研究・開発・量産のあらゆるステージに関与
- 当社の技術、ノウハウ、知見を幅広く習得できる環境

- ソリューションを提供するためには問題発見、解決能力が不可欠
- 当社の社員は入社時点で一定の素養を習得している



# 1-8. ニーズを把握した設備投資

- 顧客のニーズを把握した先行投資により、高度な研究・開発技術の獲得や、先端技術を用いた量産化に対応している

## 研究・開発・量産に対応可能な設備

機能材料 研究ラボ



医薬 開発設備



## 次世代への先行投資

中分子分野 開発設備



研究・開発  
への対応

機能材料 量産設備



医薬 原薬量産設備



バイオ 培養量産設備



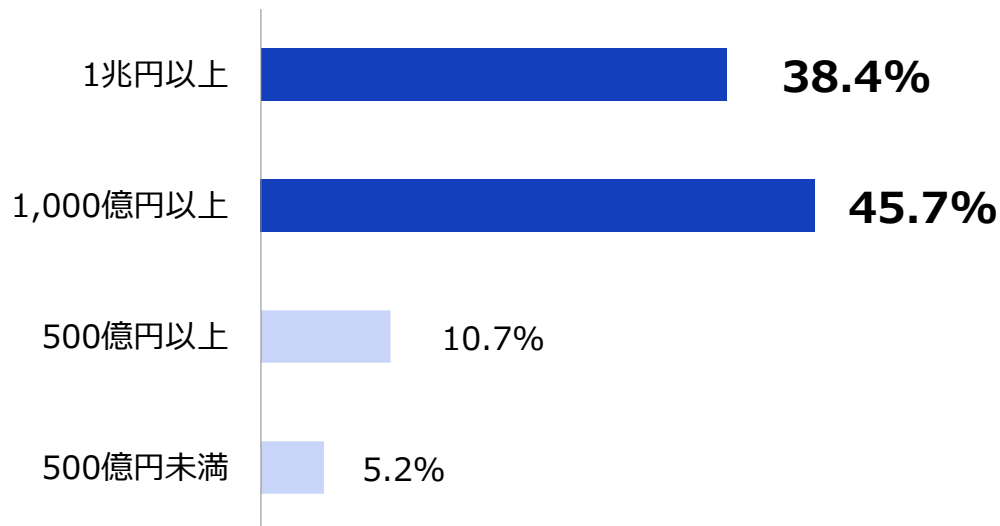
量産への  
対応



# 1-9. 優良な顧客基盤

- 顧客の大半は、売上規模1,000億円を超える大手化学・製薬メーカー
- 長期にわたる取引実績が、顧客との強い信頼関係の証

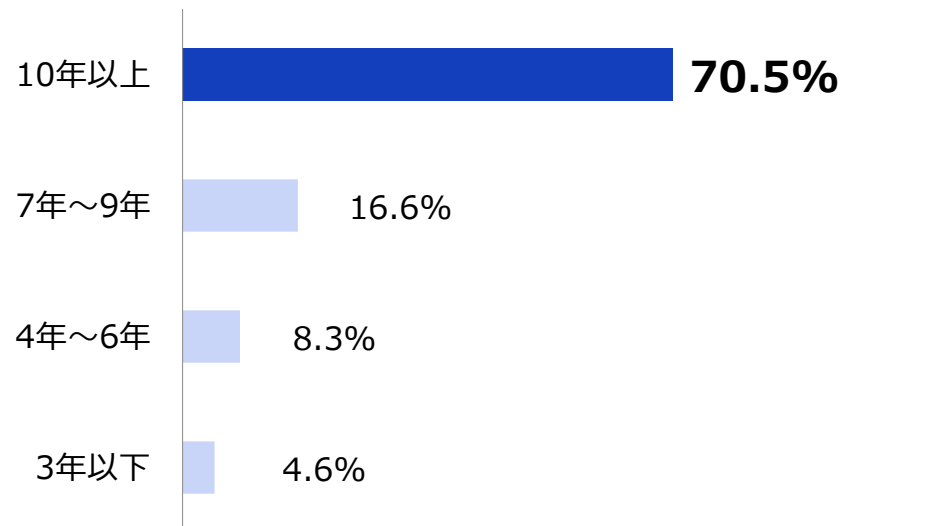
### 顧客の売上規模



売上高に占める割合

注：2018/3期における売上上位50社  
(売上高の96.5%に相当)

### 顧客との取引年数



売上高に占める割合

注：当社の2018/3期における顧客別売上

- 事業規模の大きな顧客との取引が大半を占める
- 過去13年間で累計約620社との取引実績
- 取引年数に従い、当社の技術力が評価され、信頼関係が醸成される仕組み
- 取引年数が長い顧客からは、より大きなテーマの受注が可能に



## 2. 2018年3月期決算実績



## 2-1. 2018年3月期 経営成績

- 売上高はリーマンショック前に記録した過去最高を9年ぶりに更新
- 当期純利益も過去最高を更新し、EBITDAマージンは30%台を維持

### 経営成績の推移

(百万円)	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前期差異	増減率
売上高*	3,811	4,541	4,768	6,312	+1,544	+32.4%
機能材料分野	1,521	2,345	2,358	2,962	+604	+25.6%
医薬分野	1,824	1,738	1,757	2,881	+1,124	+64.0%
バイオ分野	421	428	652	468	△ 184	△28.3%
営業利益	289	416	708	1,222	+513	+72.4%
経常利益	217	409	740	1,208	+468	+63.2%
当期純利益	182	107	484	900	+416	+86.0%
EBITDA**	986	1,243	1,544	2,004	+459	+29.7%
EBITDAマージン**	25.9%	27.4%	32.4%	31.7%	△ 0.7pt	-

\* 2015/3期、2016/3期は、上記3分野以外の売上高があるため、3分野の合計は売上高と一致しない

\*\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 上場による調達資金37億円により設備投資資金を確保。実質的な無借金企業
- 設備投資は継続するも、減価償却の進行により固定資産は一時的に減少

### 財政状態の推移

(百万円)	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前期差異	増減率
流動資産	1,993	2,368	3,185	7,246	+4,061	+127.5%
現預金	772	835	1,262	5,413	+4,150	+328.9%
棚卸資産	581	679	941	975	+33	+3.6%
その他	638	854	980	857	△ 122	△12.5%
固定資産	6,521	6,313	5,653	5,522	△ 131	△2.3%
総資産	8,514	8,681	8,838	12,768	+3,930	+44.5%
負債	4,850	4,898	4,654	4,032	△ 622	△13.4%
有利子負債	3,978	4,051	3,236	2,256	△ 980	△30.3%
その他	871	846	1,418	1,775	+357	+25.2%
純資産	3,663	3,783	4,183	8,736	+4,552	+108.8%
負債純資産合計	8,514	8,681	8,838	12,768	+3,930	+44.5%



- 営業CFは、22億円を獲得（前期比+10億円）
- 潤沢な営業CFと上場資金により、今後の設備投資資金を確保

### キャッシュ・フローの状況の推移

(百万円)	2017/3期	2018/3期	前期差異	増減率
営業CF	1,247	2,256	+1,008	+80.9%
投資CF	57	△ 697	△ 754	-
固定資産取得	△ 508	△ 885	△ 376	+73.9%
その他	566	187	△ 378	△ 66.8%
FCF	1,304	1,558	+253	+19.5%
財務CF	△ 877	2,591	+3,468	-
借入金の返済等	△ 815	△ 979	△ 164	+20.1%
株式の発行による収入	-	3,683	+3,683	-
その他	△ 62	△ 111	△ 49	+79.0%

\* FCF=営業CF+投資CF で算出

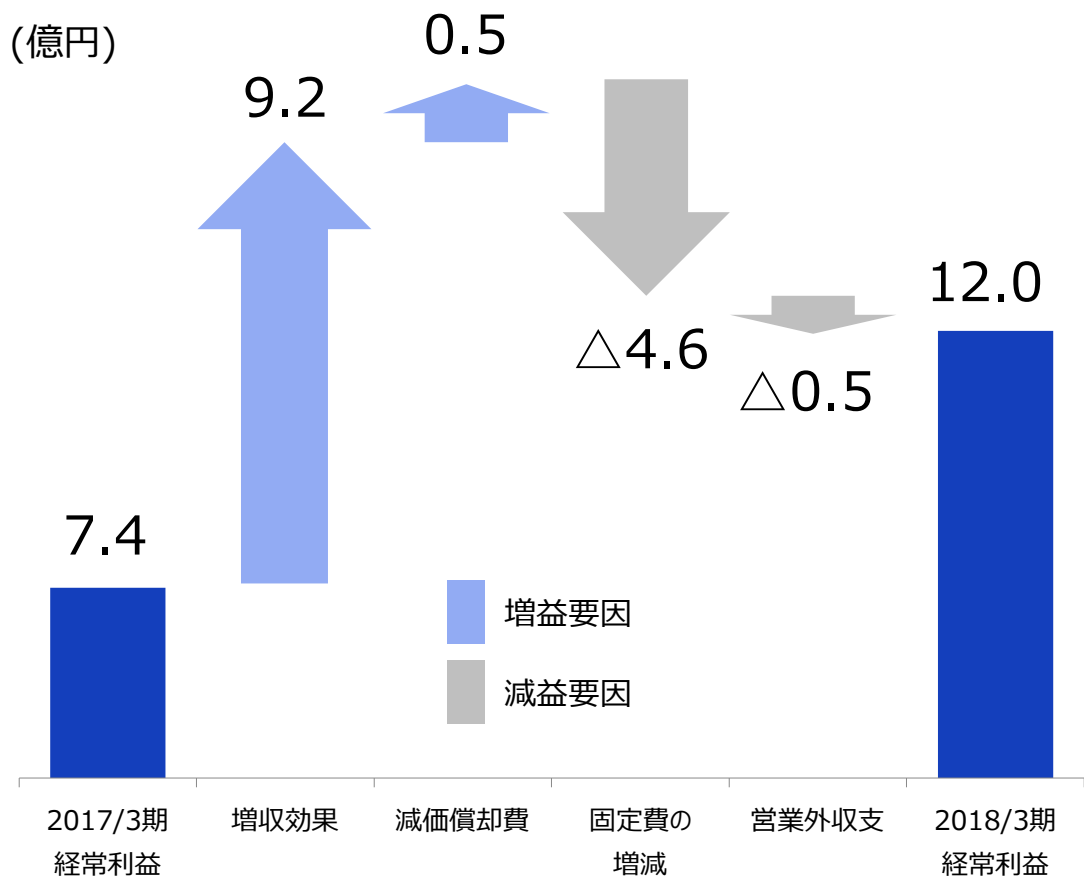




## 2-4. 2018年3月期 経常利益増減要因分析

- 人件費、研究開発費等の固定費は増加するも、増収効果で吸収。過去最高益を更新
- 特に機能材料分野での開発・量産ステージ、医薬・バイオ分野での開発ステージが増加

### 2018年3月期 経常利益の増減要因



- 増収効果 +9.2億円  
機能材料分野：開発・量産ステージ案件が増加  
医薬・バイオ分野：開発ステージ案件が増加
- 減価償却費の減少による増益 +0.5億円
- 固定費の増加による減益 △4.6億円  
人員増・特別賞与による人件費の増加  
研究開発費の増加
- 営業外収支の影響 △0.5億円  
上場関連費用



- 2018年3月期は1株当たり年間25.00円の配当を計画
- 配当性向は20%前後とし、安定的に配当を実施する方針

### 1株当たり情報の推移

(円)	2017/3期	2018/3期	前期差異	増減率
1株当たり当期純利益	80.72	148.35	+67.63	+83.8%
1株当たり配当金	15.00	25.00	+10.00	+66.7%
配当性向	18.6%	21.4%	+2.8pt	-

注) 当社は、2017年8月1日付で普通株式1株につき2,000株の株式分割を行っており、また、2018年1月6日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っておりますが、2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

配当性向は、配当金の支払い額/当期純利益で算出しております。



## 3. 2019年3月期決算見通しと中期展望



## 3-1. 2019年3月期 決算見通し

- 3期連続の増収増益で、売上高・当期純利益ともに過去最高を更新の見込み
- 成長率は2018/3期の高成長と比較すると若干スローダウンするものの、開発ステージが積みあがっており、量産ステージへのステージアップを見据える

### 2019年3月期 経営成績の見通し

(百万円)	2017/3期	2018/3期	2019/3期 見通し	前期差異	増減率
売上高	4,768	6,312	6,450	+137	+2.2%
機能材料分野	2,358	2,962	2,900	△ 62	△2.1%
医薬分野	1,757	2,881	2,900	+18	+0.6%
バイオ分野	652	468	650	+181	+38.8%
営業利益	708	1,222	1,300	+77	+6.4%
経常利益	740	1,208	1,300	+91	+7.5%
当期純利益	484	900	920	+19	+2.1%
EBITDA*	1,544	2,004	2,164	+160	+8.0%
EBITDAマージン*	32.4%	31.7%	33.6%	+1.9pt	-

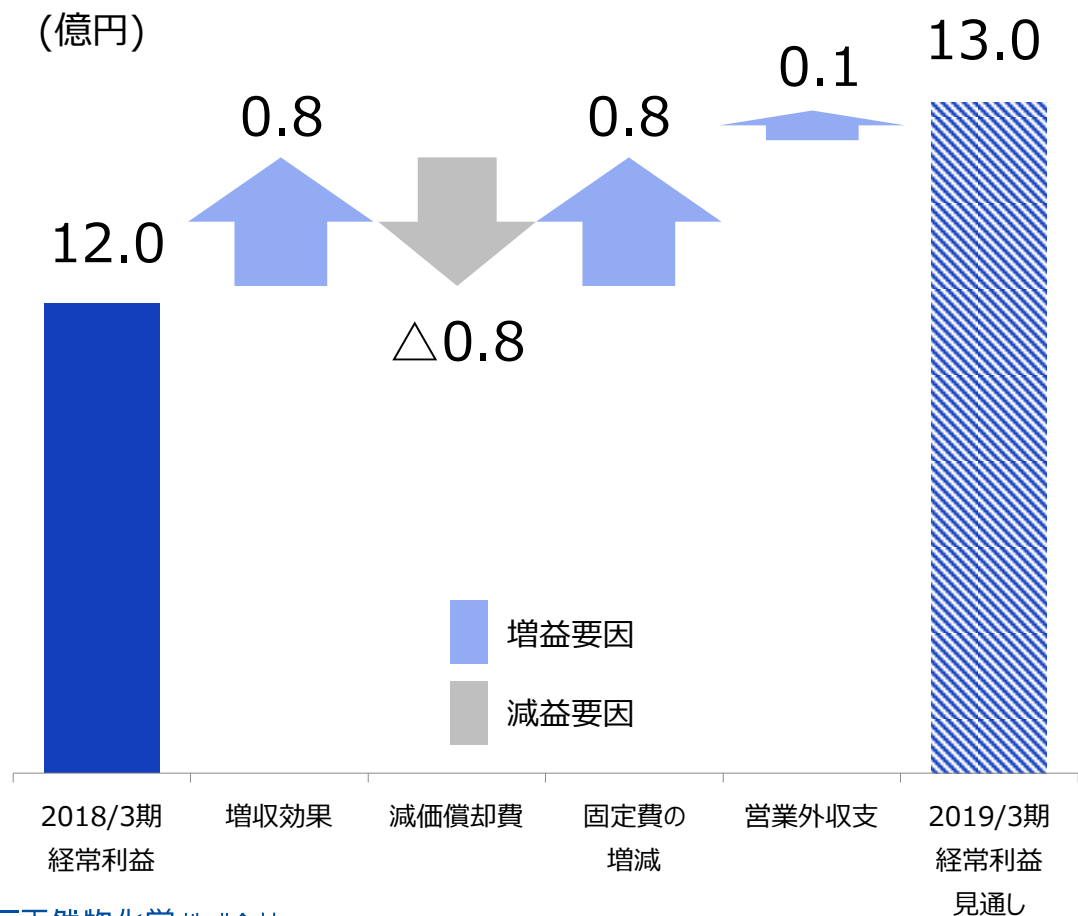
\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 で算出



## 3-2. 2019年3月期 経常利益増減要因分析（見通し）

- ・ 医薬・バイオ分野では取引増加も、機能材料分野では現時点では量産ステージの減少見込み。機能材料の量産ステージにおける当期受注獲得が課題
- ・ 償却費・人員・研究開発費は増加するも、当期は特別賞与を見込まず、固定費は減少

### 2019年3月期 経常利益の増減要因（見通し）



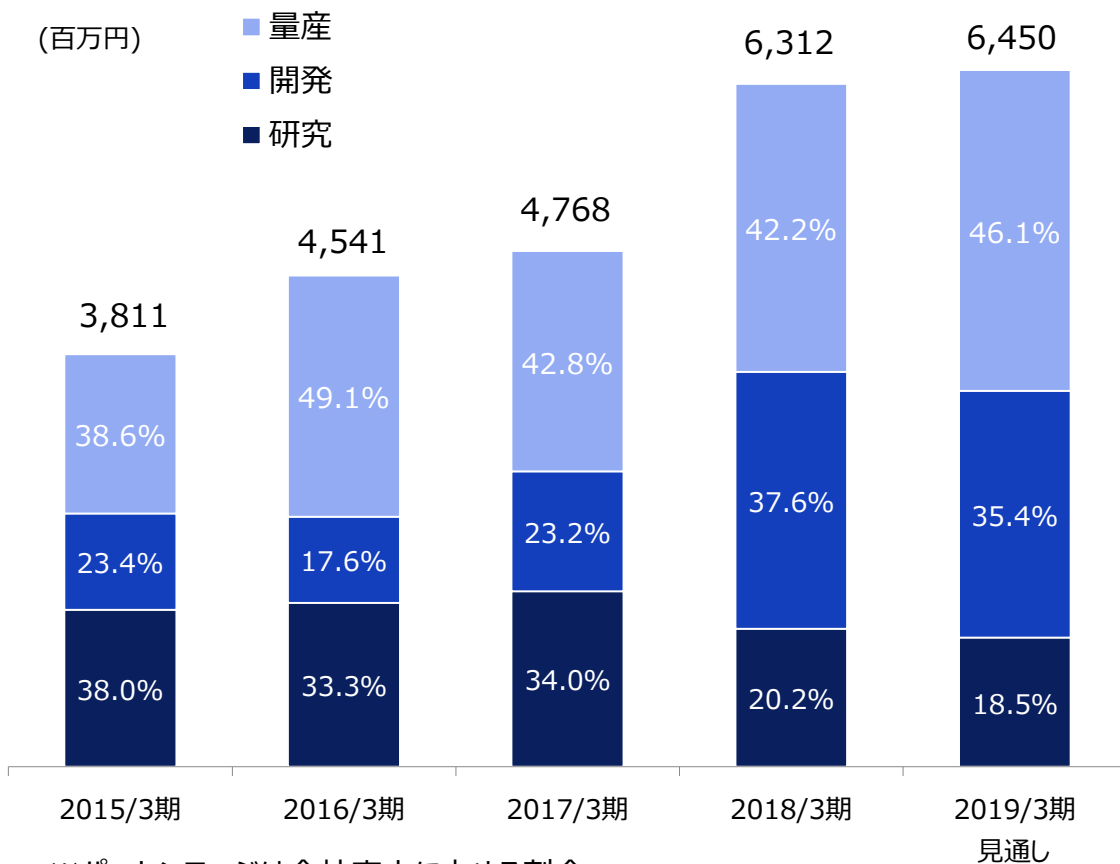
- 増収効果 +0.8億円  
機能材料分野：現時点の見通しでは取引減少  
医薬・バイオ分野：量産ステージを中心に増加
- 減価償却費の増加による減益 △0.8億円
- 固定費の減少による増益 0.8億円  
人員増加、研究開発費は増加の見込み  
前期末特別賞与の影響により大きく削減
- 営業外収支 +0.1億円



### 3-3. ステージ別売上

- 2016/3期以降、量産ステージは拡大を続けており、今後もこの方針は維持
- 2019/3期の見通しは、開発から量産へのステージアップの踊り場であり、ステージ別の構成に大きな変化はない。量産ステージ獲得を見据えて継続して開発テーマに取り組む

#### ステージ別売上割合推移



※パーセンテージは全社売上に占める割合

#### 2018/3期

- 機能材料分野、医薬分野において量産ステージの取引が増加し、大幅増収の原動力に
- 医薬分野、バイオ分野において開発ステージの取引が増加し、次期量産ステージへ向けてのテーマの成長が顕著に

#### 2019/3期

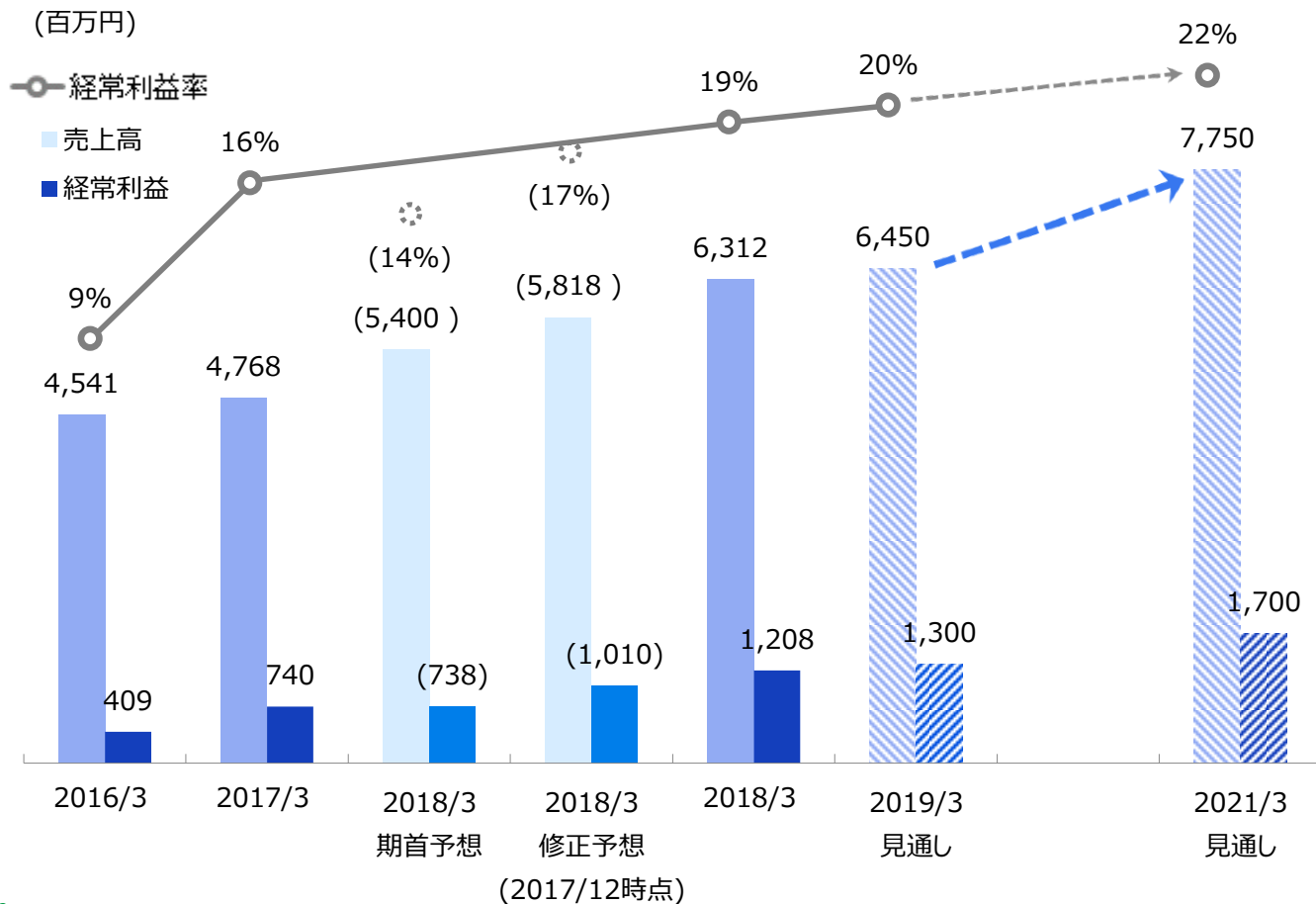
- 量産ステージの取引増加は継続するものの、ステージ別の構成比は大きく変化しない見通し
- 開発ステージから量産ステージへのステップアップの踊り場であり、将来の量産ステージへ向けた開発を進める
- 量産ステージは機能材料分野で減少するも、医薬・バイオ分野では増加
- 機能材料分野における量産ステージの確保が2019/3期の課題



## 3-4. 中期展望

- 2021/3期には売上高77億円程度、経常利益17億円程度を目指す
- 2018/3期の業績予想は合理的に立案したが、研究・開発受託では、その性質上、受注の波が大きく、結果として業績の上振れが生じた

### 中期見通し



- 2021/3期には売上高77億円程度、経常利益17億円程度、経常利益率で20%超を目指す
- 2018/3期の期首予想、修正予想は、それぞれ当時の受注状況、顧客の動向、市場環境等を勘案し、合理的に立案した  
しかしながら、案件によっては受注から納品までが短期間であり、また波が大きい  
研究・開発ステージの受託ビジネスの性質上、結果として業績の上振れが生じた

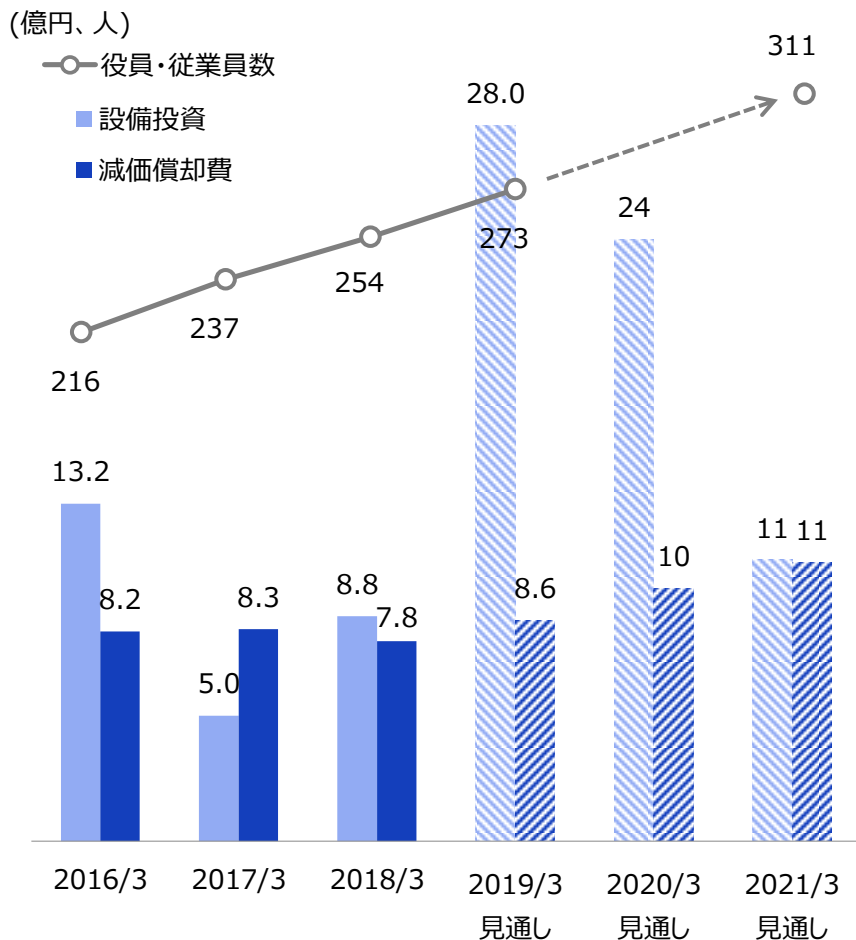
2016/3期は連結財務諸表を作成してませんが、比較可能性の観点から左記は全て単体の数値を記載しております。



# 3-5. 設備投資計画・人員計画

- 今後3年の投資計画は約63億円を計画し、役員・従業員数も300人超の体制へ
- 量産設備の増強、本社・新研究所による営業・開発力の強化を基本方針とする

## 中期生産体制見通し



## 設備投資計画

- 量産設備投資 31.5億円  
 核酸医薬原薬工場  
 原薬精製設備  
 中間体増産設備  
 培養設備の増強
- 研究・開発設備投資 18.5億円  
 本社・新研究所  
 新規試作棟  
 中分子開発設備
- その他一般投資・管理部門投資 13億円

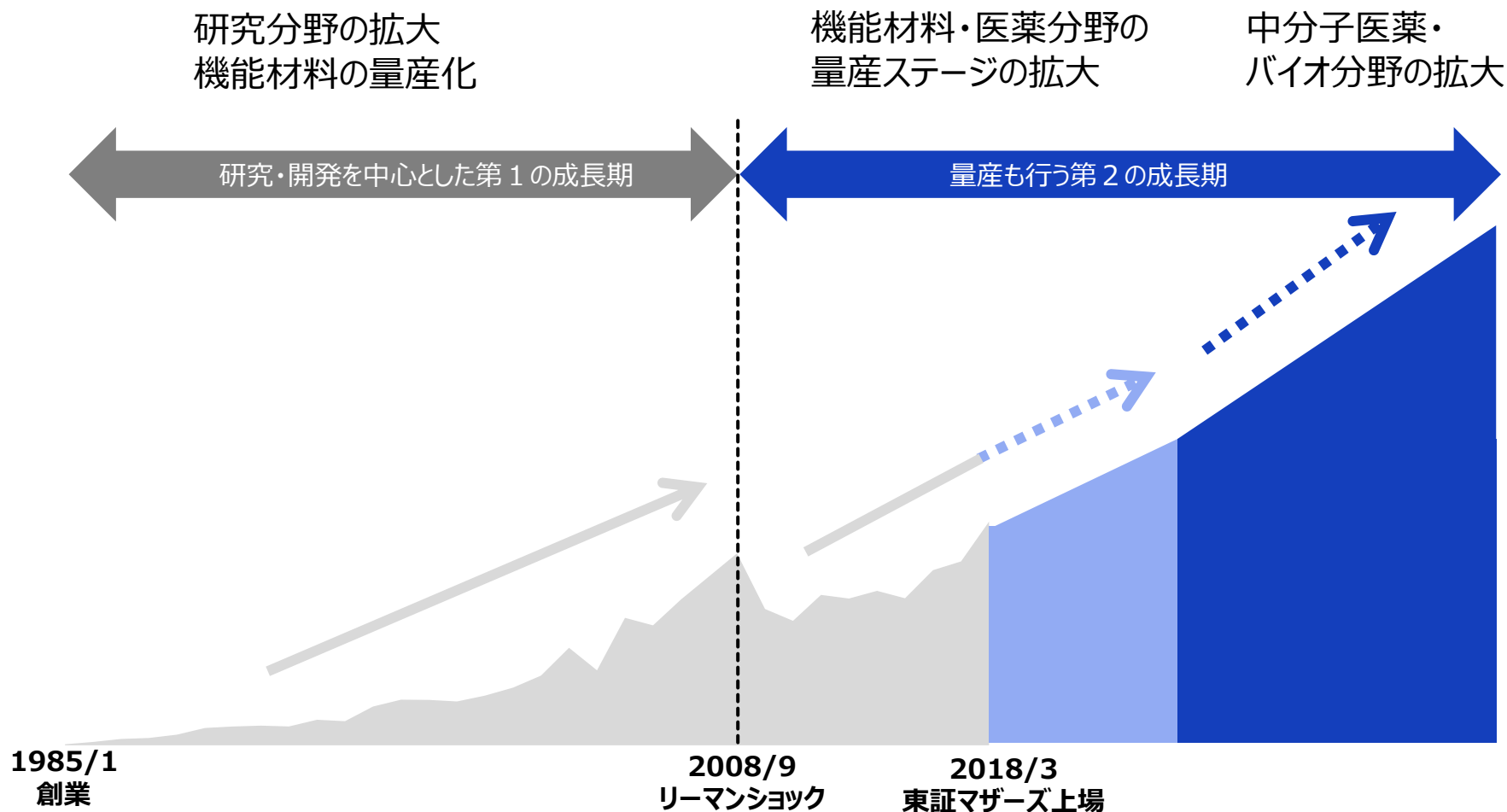




## 3-6. 長期トレンド

- 短期的には、機能材料・医薬分野の量産ステージの拡大を図る
- 中長期的には、中分子医薬・バイオ分野の研究を拡大し、成長を目指す

### 当社の発展ステージ

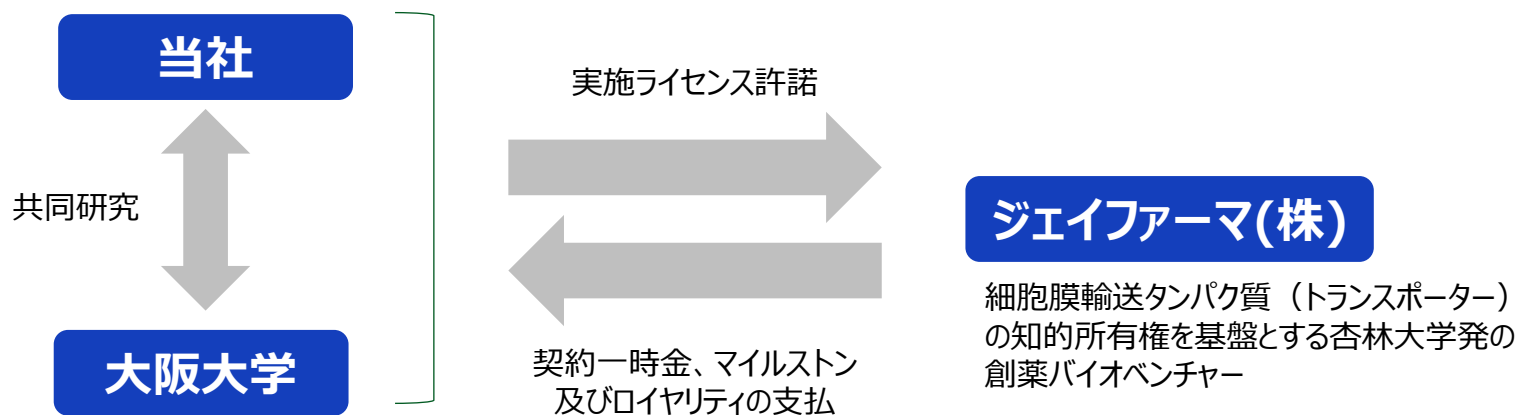




## 4. Topic

- **アミノ酸トランスポーターLAT1\*を阻害する新規抗がん剤開発候補化合物に関するライセンス契約を締結（2018年3月29日 開示）**

### ライセンス契約の提携スキーム



- 当社と大阪大学は新規抗がん剤開発候補を創出し、その特許を出願中
- 本化合物は2019/3期に臨床試験が開始される予定

\*アミノ酸トランスポーターLAT1：腫瘍細胞に選択的かつ高発現するアミノ酸トランスポーター。大腸がん、肺がん、前立腺がん、胃がん、乳がん、すい臓がん、腎臓がん、喉頭がん、食道がん、脳腫瘍などの多くのがんで発現が上昇し、LAT1の高発現群は予後不良との報告例が多い



# Topic 当社が中心となる研究開発事例 (抜粋)



分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子医薬	試薬販売/受託研究/原料生産	核酸医薬の医師主導治験薬の創製	2008年度~2011年度	神戸大学	NEDO
	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度~2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度~	名古屋大学 大阪大学	AMED
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度~2020年度	産総研 等	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度~2018年度	—	—
低分子医薬	大日本住友製薬(株)ライセンス契約	Ras のシグナル伝達に関わる有望な化合物の創製	2009年度~2015年度	神戸大学	医薬基盤研 厚労省科研費
	特許出願	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度~	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニン-バソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度~2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度~	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度~2016年度	神戸大学 等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	テロメアDNA検出を指向した電気化学活性プローブ化合物の開発	2015年度~2017年度	九州工業大学 等	島根県
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発 (助成事業/委託事業)	2016年度~2020年度	キリン(株) (株)竹中工務店 味の素(株) 等	NEDO

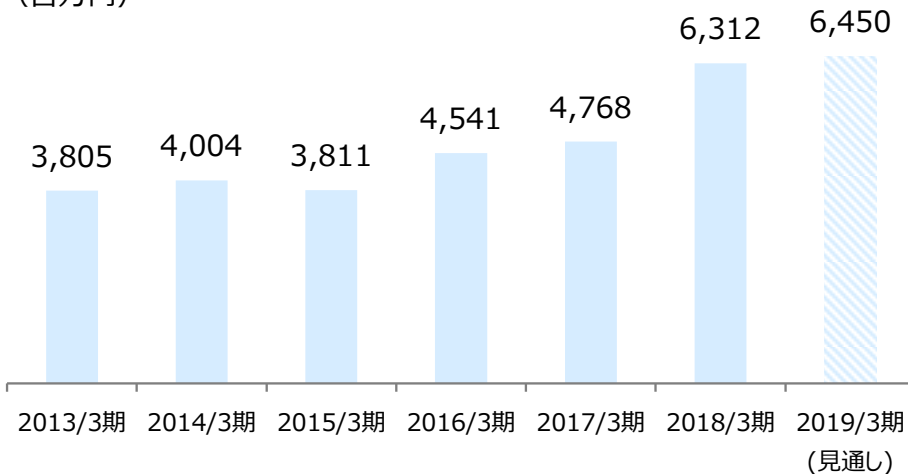
# 5. Appendix

---



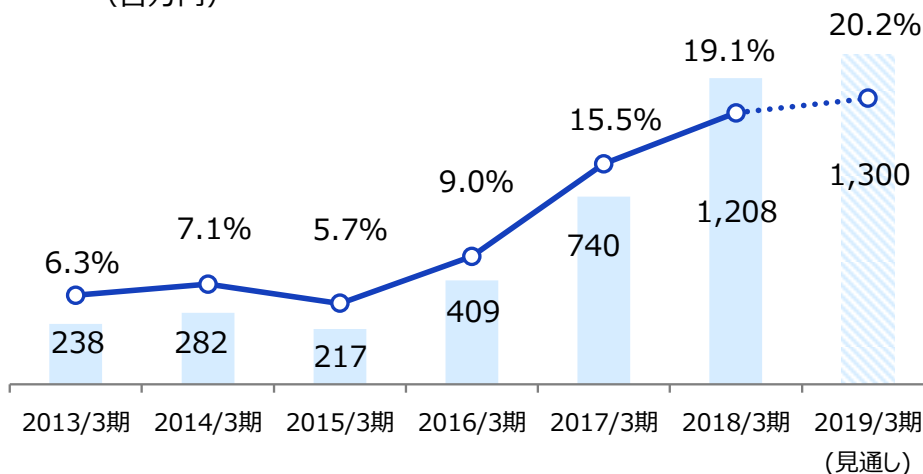
## 売上高

(百万円)



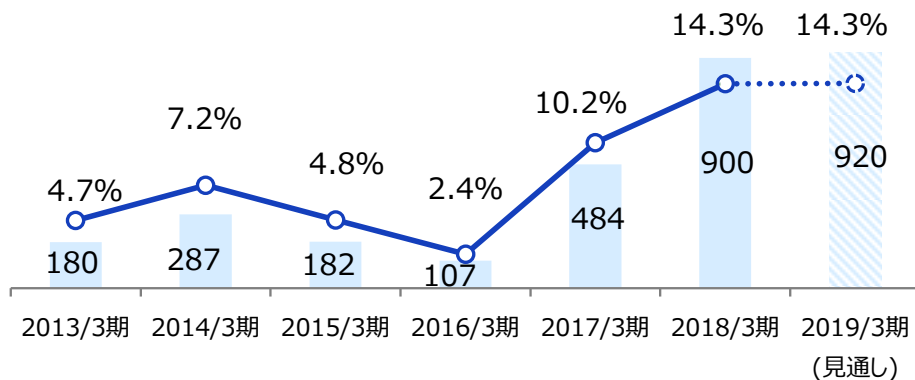
## 経常利益・経常利益率

(百万円)



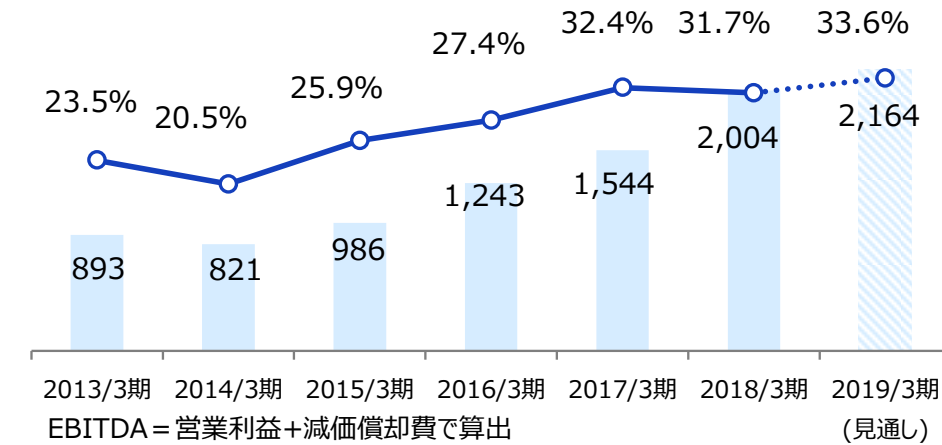
## 当期純利益・当期純利益率

(百万円)



## EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



2016年3月期は連結財務諸表を作成していますが、比較可能性の観点から上記は全て単体の数値を記載

項目 (単体)	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期
売上高 (百万円)	3,805	4,004	3,811	4,541	4,768	6,312
経常利益 (百万円)	238	282	217	409	740	1,208
当期純利益 (百万円)	180	287	182	107	484	900
EBITDA* (百万円)	893	821	986	1,243	1,544	2,004
売上高経常利益率	6.3%	7.1%	5.7%	9.0%	15.5%	19.1%
売上高当期純利益率	4.7%	7.2%	4.8%	2.4%	10.2%	14.3%
EBITDAマージン*	23.5%	20.5%	25.9%	27.4%	32.4%	31.7%
現金及び預金 (百万円)	—	—	772	835	1,262	5,413
借入金・社債 (百万円)	—	—	3,978	4,051	3,236	2,256
純資産額 (百万円)	3,189	3,476	3,663	3,783	4,183	8,736
総資産額 (百万円)	6,192	7,267	8,514	8,681	8,838	12,768
自己資本比率	51.5%	47.8%	43.0%	43.6%	47.3%	68.4%
配当性向	11.1%	6.9%	11.0%	55.8%	18.6%	21.4%
役員・従業員数	206人	209人	212人	216人	237人	254人

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

- 1985年 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 岩岡工場開設
- 1993年 市川研究所開設
- 1997年 明石市に本社移転
- 2001年 出雲第一工場開設
- 2002年 現在地に本社移転 神戸研究所開設
- 2003年 大地化成株式会社を買収（2010年売却）  
米・KNC Laboratories. Inc., 設立（2007年閉鎖）  
中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化 2016年売却）  
神戸工場開設
- 2005年 KNCバイオリサーチセンター開設
- 2007年 つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 出雲第二工場開設
- 2013年 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設  
出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
- 2014年 KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 東証マザーズ上場





# ご清聴ありがとうございました。

---

## ＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
経営企画室 IR担当  
078-993-2203 (代表)  
Knc-IR@kncweb.co.jp